

国際シンポジウム

文化財の 現在 過去・未来 —モノの記憶を残す方法—

THE PAST, PRESENT,
and FUTURE OF
CULTURAL ASSET



〔日時〕 2011年12月17日[土] 13:00 - 17:30

12月18日[日] 10:00 - 17:30

〔場所〕 立命館大学〈朱雀キャンパス〉大講義室



参加
無料



要予約

<http://www.arc.ritsumei.ac.jp/culturalasset2011/>

〔主催〕 文部科学省グローバル COE プログラム「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」(立命館大学)
立命館大学アート・リサーチセンター

文化財の 現在・過去・未来

THE PAST, PRESENT,
AND FUTURE OF
CULTURAL ASSET

—モノの記憶を残す方法—



【ご予約方法】ご予約はメールにてお申し込み下さい。お申し込みの際は必ず「参加を予定されている方全員のお名前」「ご所属・ご職業」「ご連絡先(メールアドレス、電話番号)」「参加希望日」をお知らせ下さい。

e-mail: arc-jimu@arc.ritsumei.ac.jp

主催／文部科学省グローバルCOEプログラム「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」(立命館大学)、立命館大学アート・リサーチセンター

問い合わせ／立命館大学アート・リサーチセンター事務局 <http://www.arc.ritsumei.ac.jp/>
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
TEL 075-466-3411(平日9:00~17:30) / FAX 075-466-3415

本シンポジウムは、2010年4月に開催した国際シンポジウム「文化財の現在・過去・未来 —デジタルとアナログ共存の意義—」を引き継いだ続編として開催するものである。前回のシンポジウムは、文化財保護・継承に携わる人に注目したが、今回は文化財にまつわるモノに注目したい。前回指摘された問題の一つに、継承する技術はあるのに、それを支える材料がなくなりつつあるがために、遺していくことが困難になっている事例が挙げられた。今回のシンポジウムでは、文化財を支えるモノが抱える現状を明らかにし、そのモノを未来に残していくための方法を考えていく。

モノを残していくためには、モノそのものを残す方法の他に、モノの「記憶」を残す方法があると考えられる。本拠点が推進している日本文化にかかる文化財のデジタルアーカイブ化とデータベース構築は、モノの記憶を残す手段の一つである。本シンポジウムでは、文化財保護・継承に携わる多分野の方々に、美術館・博物館、大学、行政、現場、それぞれの立場の見地から議論をし、モノの記憶を未来に永く伝えていくための可能性を検討する試みである。

プロフィール / Profile (五十音順)



青柳正規 /Masanori Aoyagi

1944年生まれ。ギリシア・ローマ考古学者。東京大学副学長を経て、現在、独立行政法人国立美術館理事長、国立西洋美術館長。東京大学名誉教授。日本学士院会員。2006年に紫綬褒章、2011年にNHK放送文化賞受章。



河合真如 /Shinnyo Kawai

神宮寺序広報室長。昭和30年、岐阜県生まれ。高校時代に化学を学ぶ。公害問題に直面して自然との共生思想をもつ神道に共感し、昭和48年に神宮研修所に入学。昭和50年、神宮に奉職。



サイモン・ケイナー /Simon Kaner

イースト・イングランド大学日本学研究センター長、セインズベリー日本藝術研究所考古学文化遺産センター長。日本の先史時代考古学を専門とする。東アジア、ヨーロッパの考古学について多数の著作がある。近著としては、大英博物館で開催された土偶展の図録等。



田辺小竹 /Shouchiku Tanabe

竹芸家。大阪堺市に三代・田邊竹雲斎の次男として生まれる。1999年東京藝術大学美術学部彫刻科卒業。国内外の個展・グループ展を中心に作品を発表。現代様式としての可能性を秘めたその竹作品はアメリカ・ヨーロッパを中心に海外で高い評価を得ている。



ジョン・マック /John Mack

28年間に及ぶ大英博物館の人類学部門上級学芸課長、人類學博物館の館長職を経て、2004年よりイースト・イングランド大学世界藝術研究科教授、世界藝術及び博物館学科長、セインズベリー藝術研究所長。2004年には「大英博物館の至宝」を民族学博物館と共同で監修した。



室瀬和美 /Kazumi Murose

漆芸作家。東京藝術大学大学院美術研究科漆芸専攻修了。1991年自白漆芸文化財研究所を開設。創作活動とともに文化財の修復活動も行う。海外への出展、講演活動も積極的に行っている。2008年重要無形文化財「漆絵」保持者(人間国宝)認定。

彬子女王 /Princess Akiko of Mikasa

2009年オックスフォード大学博士課程修了。2010年博士号取得。2009年10月より立命館大学衣笠総合研究機構PDとして勤務。在外日本美術コレクション研究や文化交流史を専門とする。現在「和樂」で様々な日本文化を紹介する「日本美のこころ」を連載中。



川嶋将生 /Masao Kawashima

立命館大学名誉教授・立命館大学衣笠総合研究機構特別招聘教授。博士(文学)。専門は日本文化史。近年の主な著書として『室町文化論考』(法政大学出版局、2008)『祇園祭』(吉川弘文館、2010)など。



千 玄室 /Genshitsu Sen

哲學博士。文學博士。昭和39年千利休居士15代家元を継承。裏千家今日庵庵主として宗室を襲名。平成14年嫡男に家元を譲座し、千玄室に改名。文化功労者国家顕彰、文化勲章、フランス・レジオン・ドヌール勲章オフィシエ、UAE連邦独立勲章第1級等受章。



原田昌幸 /Masayuki Harada

國學院大學文學部史学科卒業。千葉県立房総風土記の丘学芸員、(財)千葉県文化財センターを経て、文化庁美術工芸課文部技官。その後美術学芸課に改組、現在主任文化財調査官。縄文時代の考古学と山岳信仰に専門を持つ。



松本郁代 /Ikuyo Matsumoto

横浜市立大学学術院准教授、立命館大学衣笠総合研究機構特別招聘准教授。博士(文学)。専門は人文地理学、地理情報科学。主要な著書に『デジタル地図を読む』(ナカニシヤ出版、2006)、共編著『バーチャル京都』(ナカニシヤ出版、2007)、『京都の歴史GIS』(ナカニシヤ出版、2011)など。



矢野桂司 /Keiji Yano

立命館大学文学部地理学専攻教授。博士(理学)。専門は人文地理学、地理情報科学。主要な著書に『デジタル地図を読む』(ナカニシヤ出版、2006)、共編著『バーチャル京都』(ナカニシヤ出版、2007)、『京都の歴史GIS』(ナカニシヤ出版、2011)など。

1日目

12月17日[土] 13:00 - 17:30

12:30	受付開始
13:00	ご挨拶：飯田健夫副総長(立命館大学)
13:05	ご挨拶：赤間亮(立命館大学)
13:10	〔基調講演〕千玄室(裏千家前家元)
13:55	休憩
14:05	〔発表〕室瀬和美(漆芸作家)
14:35	質疑応答
14:40	〔発表〕田辺小竹(竹芸家)
15:10	質疑応答
15:15	〔発表〕河合真如(神宮司庁)
15:45	質疑応答
15:50	休憩
16:00	パネルディスカッション (司会：川嶋将生)
17:30	終了
18:00	懇親会

2日目

12月18日[日] 10:00 - 17:30

9:30	受付開始
10:00	〔講演〕ジョン・マック (イースト・イングランド大学)
10:40	質疑応答
10:50	休憩
11:00	〔発表〕サイモン・ケイナー (セインズベリー日本藝術研究所)
11:30	質疑応答
11:40	〔発表〕原田昌幸(文化庁美術工芸課)
12:10	質疑応答
12:20	休憩
13:30	〔発表〕青柳正規(国立西洋美術館)
14:00	質疑応答
14:10	〔発表〕矢野桂司(立命館大学)
14:40	質疑応答
14:50	休憩
15:00	〔発表〕彬子女王(立命館大学)
15:20	質疑応答
15:30	休憩
15:40	パネルディスカッション (司会：松本郁代・彬子女王)
17:30	閉会挨拶